

平成二十九年一月の收穫より（坤）

土屋 博

八 「偉人の面影」石川松溪著

（内外出版協會、大正十年八版、特製金五圓）一二六五頁
古書價格五百圓也。

凡例に曰く、「本書は曩に世界偉人立志録と題して政治・軍事・宗教・徳教に傑出したる天才・偉人の言行を研究するの目的を以て、古今東西に亙りて十三大傑を擇み、之を傳録すると共に、併せて概評を加へ之を上下二卷に別ち縮刷して偉人の面影として改題したるもの也」と。

擇ばれたるは、釋迦、孔子、諸葛孔明、楠正成、豊臣秀吉・徳川家康、大石良雄、ワシントン、ネルソン、ナポレオン、西郷南洲、伊藤博文、乃木希典、東郷平八郎なり。

たとへば、東郷元帥は、十三歳より十五六歳に亙りて、大西郷の實弟小兵衛（陽明學を修め精神的教訓を以て主眼とせし人）につきて、學業並びに體育の薰陶を受く。晨に起きて小兵衛の門前の開くを待ち、午前は主として漢學の句讀を、午後は夏は水泳、冬は擊劍、相撲、柔道等を以て身體を練り、夜は又輪讀解義の日課を修し、孜々として勉學に餘念なく、夙に俊才の聞えあり。

九 「和歌名所めぐり」佐々木信綱著

（博文館、大正十三年再版、改正定價金壹圓六拾錢）三九八頁
古書價格八百圓也。

構成は、東海道線、京都附近、伊勢方面、大和紀伊方面、大阪神戸方面、山陽線、山陰線、四國、九州、中央線、信越線、北陸線、總武線、常磐線、東北線、磐越線・奥羽線、北海道及樺太、臺灣、朝鮮及滿州、支那及印度、歐米及其他。

たとへば、平壤を詠む大町桂月の歌、「彈痕をとどめし箕子の廟ふりて松の林に夕日いさよふ」と。

十 「奥の細道新釋」荻原井泉水編著

（春陽堂、大正十三年改訂十版、定價金八拾五錢）一二七頁
古書價格五百五十圓也。

荻原井泉水は一高、東大卒業。麻布中學の先輩に當る。

十一 「家憲物語」報知新聞社編

（四條書房、昭和五年刊、定價貳圓）三九六頁
古書價格千圓也。

報知新聞家庭欄に百四十回に亙り連載せられ、白熱的歡迎を受けたるものとぞ。

徳川家達公爵の場合、

家康公の家憲五箇條（先づ己が好むところを避け、己が嫌ふところを務むべきこと、ほか）及び遺訓八戒（人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し、必ずいそぐべからず、ほか）

三井八郎右衛門男爵の場合、

三井家を形成するものは永遠に十一家なり。（毛利元就三本の矢の故智にならひて）

伊藤博邦公爵の場合、

ただ一つ、借金をするな。

六代目尾上菊五郎の場合、

毎興業の千秋樂は役者にとりては大晦日。この日はぬる後、師匠の家に門弟達集まり祝杯を擧げ、白々と東の白む頃歸路につく慣習あり。

十二 「小學國史教師用書 上、中、下二、下二」文部省

（文部省、昭和六年より十三年まで刊、定價五十錢、七拾錢、七拾錢、八拾五錢）

二七八頁十四三〇頁十四三九頁十五六〇頁

古書價格二千六百圓也。

教師用なれば、現代の大人の學ぶに十二分の詳しき内容なり。昔の人の常識としたるものを改めて追體驗して勉強することを得。

（平成二十九年四月十日受附）